

大阪アニメーションカレッジ専門学校 専門課程

2022 年度 学校関係者評価報告書

(基準日2023年3月31日)

はじめに

本校では、学校教育法及び学校教育法施行規則に則り、学校評価（自己評価・学校関係者評価）実施に向けた体制作りを行ってまいりました。そして現在、文部科学省策定の『専修学校における学校評価ガイドライン』をもとに、学内におけるPDCAサイクルの確立を目指し自己評価を行っています。より充実した、教育環境と在校生・卒業生のサポート体制確立に向けさらなる努力をしていく所存でございます。本校関係各位の皆様におかれましては、さらなるご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

2023年9月13日

学校法人大阪創都学園
大阪アニメーションカレッジ専門学校
学校長 田中 道信

<学校関係者評価委員>

- 地域関係者 石井 博章 サニーストーンホテル 代表取締役社長
- 教育関係者 東龍太郎 科学技術学園高等学校 通信課程 分室長
- 業界関係会社 三原淑治 エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役
- 卒業生 北原優希 アニメ声優コース 5期生(2008年度生)

<事務局>

- 学校関係者 田中道信 大阪アニメーションカレッジ専門学校 学校長
- 西尾拓也 大阪アニメーションカレッジ専門学校 副校長
- 城将敏 大阪アニメーションカレッジ専門学校 事務長

<実施概要>

- ・評価項目についての前年度対比の解説と今後の対策
- ・評価者の方々からのご意見及び質疑応答

大阪アニメーションカレッジ専門学校 専門課程 2022 年度自己評価表

I. 令和 4 年度自己評価報告について

- ・学校長挨拶
- ・自己評価報告書において特筆すべき項目について個別説明(下記参照)

■学校運営

- 2-11 ・業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- ・教職員は定例の会議にて周知徹底し、学生についてもホームルーム、各授業や WEB 掲示板を通して指導している。具体的には、学生保護者へは、クラウドサービス、一斉配信システムなどを使用している。

■学修成果

- 4-31 ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- ・全卒業生の活動把握は難しいが、在学中より学校や担任、講師とのつながりを深く持つことによって得られてくる情報により活動把握がしやすくなっている。卒業しても状況報告等が各担任や就職・キャリアセンターにあることも学校の大きな特徴だと思う。令和 4 年度は、校友会を開催し、卒業生の近況などの情報を収集を行った。

■教育環境

- 6-42 ・学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか
- ・外部の現場に出て行う企業研修制度や製作活動においても具体的な指針を示しながら、その充実に向けて取り組んでいる。業界関連の協会、地域との連携により実践的且つ教育的配慮のされた連携プログラムを実施している。海外研修は、新型コロナウイルス感染拡大のため引き続き中止とした。

■国際交流

- 11-67 ・学内での適切な体制が整備されているか
- ・留学生専門の担当者を配置し、教務部担任と連携を取り受け入れから卒業後のサポートまで支援を行っている。留学ビザの期限に関する管理、生活指導、キャリアサポートなどを各部署にて連携指導。

■財務

公開情報 「令和四年度 財務関係報告書」をもとに事務長より報告、説明。

II 授業運営及び学事等の報告

■令和 4 年度の在校生出席率、進級卒業率、進路決定率、入学者数など具体的人数の報告。

■実践的プログラム／地域貢献活動な／産学協同プロジェクト(企業連携)など

- ・声優プロダクション EARLYWING さまとの連携による声優ワークショップ(声優学科アフレコ特別授業)
- ・南海電鉄 鉄道安全啓発アニメ「南海電車、カイくんの大冒険！」制作
- ・吹田市環境部(アジェンダ 21)「ムーンライトコンサート」告知ポスター制作
- ・吹田市保健所 地域猫保護活動の啓蒙ポスター制作
- ・江坂企業協議会 清掃活動ボランティア参加
- ・令和 5 年 4 月にリニューアルした江坂公園図書館前のテーブル用イラスト提供
- ・大阪市 こども青少年局「こども夢・創造プロジェクト」声優ワークショップ会場提供及び講師派遣
- ・天満音楽祭「会場 MC ボランティア」

- ・大阪デジタルコンテンツビジネス創出協議会主催 (ODCC)
「あべの天王寺サマーキャンパス」にてオンラインイラストワークショップ実施 (卒業生派遣)
- ・高槻ジャズストリートでの「会場 MC ボランティア、似顔絵出店」
- ・連携高校への講師派遣とカリキュラム提供

Ⅲ.ご質問、ご意見

■ご質問:「近年、声優事務所の再編や、業態の変化などがあるのか？」

回答: 大きく目に見える変化があるわけではないが、一部の企業では再編している業種も見られる。声優の顔出しやテレビ出演が増えていることで、マネージメントに関してもテレビ関係に注力されている事務所も増えてきている。Vチューバーに関しても数年前までは声優業界では否定的ではあったが、大手メーカーとのタイアップが増えており無視できない現状となっているようである。本校もVチューバーによる学校行事などの発信をwebサイトなどで行っている。

■ご質問:「就職率の数値が一般的な学校と比較して低いように感じられるが、原因はどのようなことか？」

回答: 学科やコースの特色上、卒業後の進路としては『就職』と『デビュー』に大きく二分される。就職に関しては、企業からの求人スケジュールに前倒し感があるため、学生へのキャリアスケジュールも前倒しでは動いているが、スケジュール通りに進められない学生が多く、卒業後も就活を続ける学生が多い。そのため卒業後もそれらのフォローを随時行っている現状。

■ご質問:「紙媒体のコミック出版が減少しているが、マンガ家を目指す学生への対応策はどのように行っているか？」

回答: Web トゥーンを取り扱う企業より学生作品の持ち込み希望が増加している。以前は出版社へ作品持ち込みが主流だったが、Web トゥーンを扱う企業への持ち込みに移行してきている。スマホアプリ等でのコミック(Web トゥーン)制作の需要が伸びている現状。対応できる学生を育てる必要があるため、マンガ・イラスト学科の授業にWeb トゥーンの授業を取り入れている。ただ、Web トゥーン企業が求めるものと学生の希望する作品ジャンルとが違うことが多い。臨機応変に多ジャンルに対応できる思考を持たせる必要があると感じている。
※Web トゥーンが注目されている今、制作会社ではアニメーション制作に近い分業制を敷いている業態の会社が増えている。

■ご質問:「通信制高校からの入学者へのフォロー体制は、どのように行っているか？」

回答: 通信制高校から毎年、約 1 割程度の入学がある。通信制高校から入学する学生に対するフォローとしては、学校に居場所を与えるべく、放課後のクラブ活動を推奨している。学科・コースを問わず学生の興味のある分野を部活動としてコミュニティの場を用意してそこに職員を配置し活動している。これは通信制高校からの学生だけでなく、ひとり暮らしで家に帰っても一人で過ごしがちな学生へのケアにもなっている。

■ご質問:「オープンキャンパスはコロナ禍もあったがどのようにしていたのか？」

回答: 本校ではオープンキャンパスを継続するに当たって、コロナ禍でもオンライン学校説明会やオンラインオープンキャンパスを実施してきた。コロナ禍では一時オープンキャンパスへの対面参加を推奨しない高校もあったが、この 1 年では元に戻ってきており、高校生もオープンキャンパスに参加している様子ではある。しかし、高校生のオープンキャンパスへの参加に関しては、以前ならば複数校のオープンキャンパスに参加して決めていたものが、コロナ禍でオンラインやwebサイトでの進路選びが行われた影響もあるのか、Web上で自分なりに学校選びを行った上で、最終確認としてオープンキャンパス参加している様子がうかがえる。そのため参加しているコアな層から出願につなげる必要がある。過去のオープンキャンパスでは多人数の中からの決定率を上げることが目標となっていたが、今は入りたいと思って最終確認で来校している高校生がどれだけ決定につなげられるかになっているため、体験授業終了後のフォローを重視して高校生のケアを行っている。

■ご質問:「AI、チャット GPT に関する授業への取り組みはどのように行っているか？」

回答: ガイドラインを作成し講師、学生へ周知を行っている。基本的な考えとしては、AIを深く理解し正しく利用することを推奨している。企業側は、AIを使用しディレクションできる人材を多く求めている。現状ではAIディレクションを行うカリキュラムがないため今後は、構築していく必要性を感じている。